



## かけがえのない日々

去年は16日（木）が体育祭準備で、17日（金）が体育祭だったから、あれからほぼ一年が経ったことになる。今年は体育館の関係で7月8日（火）になってしまい、行事に向けてのクラスの雰囲気も今一つという印象だったが、昨日の学級タイムでの逆カップル決めで、だいぶ行事らしい雰囲気が出てきた感じである。間もなく合唱祭の練習も解禁になるし（…ということとは、つまり考査2週間前ということでもある！）、そろそろ本格的に「クラスの力」が試される時期になってきたといえようか。

ここでいう「クラスの力」とは、単に行事に強いということだけではない。行事に向かってしっかり準備をしながら、同時に授業の手も抜かないで、毎時間きっちり力を伸ばしていることが感じられるクラスであり続けるということである。やらなければならないことが山積するだろうことは分かるが、今までの経験もあるのだから、それを生かし、さらに自分の性格なども加味して、しっかりした学習プランをあらかじめ立てておき、それをできる限り実行する努力をしよう。

ちなみに、昨日の学級日誌を紹介すると、

▼5月14日（水） ●●

逆カップル決めで●●がモテモテでと～っても面白かった（爆笑）。久しぶりにたくさん笑った（笑）。でも、星陵祭の実感がわいてきた!!! 去年はクラスのこと全然できなかったけど、今年はできるだけやりたい!!! クラスの劇を見るのが楽しみだなんて。星陵祭とかでうかれて勉強しなくなりそうだから注意しようと思った（笑）。

☆ラシュタット条約 → クリスマス

その星陵祭であるが、35Rは「アルジャーノンに花束を」である。原作小説のあらすじをWikiからの引用で示すと、

精神遅滞の青年チャーリーは、他人を疑うことを知らず、周囲に笑顔をふりまき、誰にでも親切であろうとする、大きな体に小さな子供の心を持ったおとなしい性格の青年だった。彼は引き取ってくれた叔父のパン屋での仕事のかたわら、精神遅滞者専門の学習クラスに通っていた。ある日、そのクラスの監督者である大学教授から、開発されたばかりの脳手術を受けるよう勧められる。先に動物実験で対象となったハツカネズミの「アルジャーノン」は、驚くべき記憶・思考力を発揮し、チャーリーと難関の迷路実験で対決し、彼に勝ってしまう。彼は手術を受けることを承諾し、この手術の人間に対する臨床試験の被験者第1号に選ばれたのだが…。

<役者>

チャーリー：	アリス：
ニーマー：	ストラウス：
ギンパイ：	フランク：
ジョウ：	ローズ：
ノーマ：	マット：

看護師：

<踊り>

<大道具チーフ>

<小道具チーフ>

<装飾チーフ>

が現在の体制である。

日比谷の三大大行事もあと一回ずつ。将来、思い出を彩るだろうかけがえのない日々を、後悔することのないように過ごしていこう。